

発行責任者：田中 正剛  
〒662-0854 西宮市櫛塚町1-14  
光栄ビル2F  
TEL 0798-22-5172 FAX 0798-34-8353

## 創刊号

二十七才の志をいつまでも忘れずに、  
行動し続けたい。



西宮市議会議員

**田中まさたけ** (28才)  
市政報告

## 報告概要

### ★初めての議会・6月定例会が開催されました。

阪神大震災の影響で、初当選させていただいてから遅れること約1ヶ月半後の6月11日から私の任期が始まりました。そして、6月18日から7月11日まで6月定例会が開かれましたので、ご報告致します。「継続は力なり」をモットーに、これからもこの活動記を発行し続けたいと考えています。

### ★今後1年間の議会での役職、担当が決まりました。

6月定例会では毎年、その年度1年間の45人いる各議員の議会役職、常任委員会担当が決められます。今年も例外なく深夜におよぶ話し合いの結果、議長・副議長をはじめ担当常任委員会等が決まりました。

### ★早速一般質問を行いました。

新人ながら、早速一般質問をさせていただく機会を頂きました。時間は約90分間。紙面の都合上すべてを掲載することはできませんでしたが、項目と重点的に質問した内容を裏面に掲載いたしました。掲載できなかった項目については、市議会ホームページをご覧ください。田中事務所までお問い合わせ下さい。

### ★視察に行って参りました。

7月28日・29日に私が所属する総志会のメンバーとともに、市長が変わり行政改革が注目される横浜市と合併して政令指定都市になって間もないさいたま市に視察に行きましたので、概要をご報告します。

## ◆「27才の志」を忘れず、行動し続けます！

おかげさまで、大方の予想をはるかに上回る3507.109票ものご期待を頂き、第6位で当選させて頂きました。心から感謝している次第です。

しかし残念ながら、投票率は前回より4%近く下回り41.36%と市民の市政への関心はさらに低くなりました。これほどまでに政治に対して不信感を抱かせ、関心を薄れさせている原因の1つとして、**多くの政治家が選挙の前にだけ姿を現し、その後の自分の活動を報告しようとし**ないことが挙げられると考えています。私はそんな政治家にはならないと皆さんに約束しました。政治家が、皆さんの一番身近なことを扱っている市議会議員が、市政の現状や自分の活動を特定の人達にだけでなく、広く皆さんの前に出て報告する、考えを主張する、そうすることで、皆さんからの市政に対するご意見を聞く機会が作れる、こういった活動が**市政を活性化させる第一歩**だと考えています。政治家が皆さんの前で動けば市民は必ず反応してくれることは、先日の統一地方選挙で県議会議員初当選を果たしました筒井のぶお議員の事務所でスタッフを勤めていた時に実際に経験してきました。**政治の活性化なくしてこれからの社会の真の発展はない**のではないのでしょうか。

また、筒井事務所で学んだ、「批判するだけでは何も変わらない、諸課題を解決するための具体的な方法としての政策を提案することこそ真の改革につながる」ことを常に念頭に置き、



「27才の志＝政治を活性化させること」を忘れず、西宮再活性のため、行政に対して更なる政策提案を行い、広く皆さんの前で行動し続けます。

## ◆議会での役職・担当が決まりました。

私にとって初めての議会となる6月定例会が6月18日から22日間の会期で開かれました。選挙が終わって初めての議会であり、まずは、これからの1年間の議長・副議長をはじめ、各議員が所属する常任委員会とその委員長・副委員長、担当する審議会委員等を決定しました。

西宮市議会には、議会で上程される議案を専門的に集中的に審議するため、4つの常任委員会に分け、1人の議員が1つの常任委員会を担当します。その4つとは、総務、厚生、市民文教、建設の各常任委員会です。私のように会派に所属する議員は、会派ごと割り振った所属人数に基づいて、会派で所属を決めます。蒼志会では、新人であろうとも議員の意思を反映し、議論して決めました。

私は、議員1年目ということもあり、これまでスタッフを勤めてきた中で、資料などに触れる機会が多かったこともあり、現在の課題を他の常任委員会の所管よりも把握できているということで**建設常任委員会を担当**させて頂くことになりました。今定例会では、甲子園競輪場跡地に建設予定のマンション建設に関する請願や下水道事業、市営住宅の家賃滞納の件等を集中的に審議した他、交通バリアフリー基本構想に関する報告がなされ行政に対して現状を確認しました。

その他、市営駐車場等の管理を市が委託している**西宮市都市整備公社の参与**、将来の西宮市のまちづくりを左右する**都市計画審議会委員**を担当することになりました。

# 議会報告

## 1 1 項目にわたり一般質問！

初めての議会で早速、壇上に立っての行政に対して発言ができる一般質問をする機会を頂きました。そこで早速選挙の際公約に掲げてました内容を含め、今後私の任期の間に具体策を提案していこうと考えている課題について、現状の確認・市の考え方を質問しました。質問項目は以下のとおりです。

### 1. 財政難の克服策として

- (ア) 新たな行財政改善計画の策定について
- (イ) 近隣都市との合併に対する考え方
- (ウ) PFI手法の導入について
- (エ) 事務事業評価システムについて
- (オ) 遊休市有地の有効利用について

### 2. 環境問題

- (ア) カラス対策について (イ) 公園整備について

### 3. 医療・福祉問題

- (ア) 西宮市立中央病院のあり方について
- (イ) 市営住宅の家賃滞納対策について

### 4. まちづくりについて

- (ア) 歩道のフラット化について～身近なところからバリアフリー化を～
- (イ) JR夙川駅（仮称）周辺整備について

## ◆財政難の克服策に重点を置いて質問しました

阪神大震災以降、復興に全力を挙げなければならず、また、長引く景気の低迷により、財政難におかれた西宮市は、必要とされている事業でも優先順位をつけ、やりくりをしながらできる範囲で行っているのが現状です。今後ますます福祉分野での事業をはじめとして、費用が掛かる事業が必要となっている現在、財政状況を一刻も早く克服しなければなりません。

そこで、本年度で第二次行財政改善計画が最終年度を迎えるのですが、いっこうに財政状況が良くなったとはいえません。5年前に立てた数値目標は大方クリアできているのですが、まだまだ数値目標自体不十分であったと考えられます。そこで、もちろん新たに中期的な行財政改善計画を立てて実行して行く必要があるのですが、その計画が具体的にいつまでに提示され、第二次で財政難を克服し切れなかった反省を踏まえどのような視点で計画を策定するのかを質問しました。

本年度中には策定するとのことで、その中で企業経営の観点を取り入れた行財政運営への質的転換を図るとのことでした。。

これから5年間で、**現職員数40%近くが定年を迎えます**。その補充として同じ人数だけ新規職員を採用するのではなく、現在の事務事業の中で、民間に任せて質を落とすことなく効率的にできることは**民間委託化を進める**ことで、役所自体の事務事業を減らし、**新規職員の採用を抑制する**（ゼロにすると将来的に見て後継者の育成に支障をきたすので満遍なく採用することは必要だと考えています）ことでスリムな行政の実現に努力してもらえよう要望しました。

## ◆新たなシステムの実施はスピーディーに！

市職員が直接行う事務事業を削減するために、現在試行中の**事務事業評価システム**を是非とも活用すべきなのです。PFI手法など民間の活力を活用する方法も必要です。他の自治体ではすでに、5年から10年前には実施していることをみても、一刻も早く機能させるべきなのです。慎重な議論は必要ですが、**失敗を恐れずスピーディーに実行できるように研究・策定する担当課の人員を増やすなど人員配置を考え直すべきだと主張**しました。





## ◆自分にとっての更なる課題が見つかりました

紙面の都合上、すべてをお伝えすることができないのが残念ですが、市議会ホームページにて議事録だけなら掲載されておりますのでご覧になって下さい。今回の質問の大半の項目に対して、「できない」という答弁ではなく、「今後研究していく」という答弁が帰ってきました。行政側の取り組み状況を今後も確認しつつ、議会側つまり私からも具体策を提示し一刻も早い実現のために取り組んでいこうと考えています。そのための自分にとっての課題が見つかった有意義な質問となりました。

## 活動報告 ～横浜市・さいたま市を視察～

7月29日・30日の2日間、蒼志会のメンバーとともに視察に行きました。よく、視察に対する市民の方からの悲しい声が聞こえます。確かに明確な目的のない視察は無意味です。税金の無駄遣いであると同時に、視察先の担当者の貴重な時間をさいて頂いて説明を受けているのに、その時間をただの浪費に変えることは許されません。

今回の目的は、蒼志会の総合的な政策である行政改革について、市長が代わり確実に改革を進めている横浜市と、合併して政令指定都市になったばかりのさいたま市を視察しました。

横浜市では、西宮市でも早急に取り入れるべき制度の策定が目白押しで、大胆かつスピーディーに改革を進め、2～3年で制度を実行に移していることに驚きを隠せませんでした。西宮市でもこのスピーディーな対応を要求していこうと決意を新たにしました。

一方さいたま市では、合併することの目的が財政的なメリットではなく、合併によるデメリットの解消等、今後政策提案する上でさらに研究していかなければならない課題を見出しました。